

帳」認知度が低かった理由として、本人や家族が「手帳」を持参していないことが考えられた。しかし、持参した場合の利用割合は介護保険サービスに関わる者よりも高く、かかりつけ医の受診時に患者及び介護者が「あんしん受診手帳」を積極的に持参し提示していくような指導が必要あると考えられた。

主介護者が高齢であると、「手帳」が施設へ持ち込まれない傾向がみられた。確実に施設入所時に「手帳」が施設に渡るようになるには、主介護者が高齢の場合の「手帳」の管理が問題になると考えられた。入所時に「手帳」が持ち込まれた場合は、「手帳」の存在が入所後のケアに役に立っていることが明らかになった。特に認知症診断名、かかりつけの医療機関、関わっている人一覧が役に立ったようであった。具体的にどのようなことがケアの役に立ったかでは、ノート記載で経過が分かったことでケアの役に立ったという意見が 10 施設全てで認められた。進行期に入所する場合が多いため、それまでどのような経過をたどって入所に至ったのかを知りたいという希望が強く聞かれた。また看取りまで行っている施設では、「手帳」から、認知症が初期の頃に本人が今後の受けたいケアについてどのように考えていたか知ることができれば、「手帳」を終末期のケアに役立てられると考えていることがわかった。

分担研究者 品川俊一郎担当分の研究についての目的、方法、結果、考察を以下に記す。

A. 研究目的

認知症ケアに関して、横断的だけでなく縦断的な連携を重視することにより、医療と介護のさらなる有機的な連携を行うシステムの構築を確立することを目的として、縦断型連携パスが熊本大学で開発された。しかしながら認知症ケアにおける医療と介護の連携、あるいは病診連携の状況は人口動態や大都市圏か地方都市かといった地域の特性によっても大きく変わる。両者では居住形態や介護の主体となりえる人物も異なるうえ、連携面においても大都市圏では多くの専門医療機関が存在し、介護施設も多く存在するため連携は不十分になりやすいという問題もある。以上を踏まえ、大都市圏における縦断型連携パスの運用に関する現状と問題点を東京の認知症専門医療機関で調査するのが本研究の目的である。

B. 研究方法

認知症患者に対する縦断型連携パスである「火の国あんしん受診手帳」を 2013 年 3 月から 2014 年 7 月までに東京慈恵会医科大学および関連 3 施設を受診した連続例のうち、同意の得られた 84 例に対しての配布を行った。1) 配布の同意が得られなかった例について検討し、比較の同意が得られた例に関しては、2) その背景因子についての検討を行い、3) 配布から 6 ヶ月後に家族介護者、かかりつけ医、利用中の介護事業所に対してアンケートを実施した。

C. 研究結果

1) 配布の同意が得られなかった例に関して

配布の同意率は 40%であり、配布を打診

した半数以上の例で配布の同意を得ることができなかった。そのため、目標の 150 例の配布は達成できず、84 例の配布にとどまった。配布の同意を得られなかった理由については、1) 面倒そう、2) 診療情報提供書やお薬手帳、製薬会社の作成している資料との区別がわからない、3) 今の時点では介護を利用していない、などといった点が挙げられた。

2) 同意が得られた 84 例の背景

84 例の背景因子を表 1 に示す。

性別 (M:F)	30:54
年齢 (平均 ± 標準偏差)	79.2±9.3
診断	AD=50 AD+CVD=10 VaD=3 AGD=1 DLB=6 FTD=1 iNPH=1 MCI=12
MMSE (平均 ± 標準偏差)	19.5±5.7
CDR	0.5:1:2:3=28:42:12:2
要介護度	なし=40 要支援 1=2 要支援 2=2 要介護 1=18 要介護 2=12 要介護 3=4 要介護 4=3 要介護 5=3

3) アンケート結果

結果のアンケートについて聞き取りが可能であったのは、かかりつけ医 63/84 例 (75%)、介護関係者 39/84 例 (46%)、家族 70/84 例 (83%) であった。

3-1) かかりつけ医アンケート

患者が手帳を持参するかという質問に対しては、「手帳を持参される」+「時々持参

されるが」34%であった。手帳を活用しているかという質問に対しても、「活用している」+「時々活用している」が 34%であった。活用している部分に関しては「介護サービス利用状況」や「関わっている人一覧」などが多く、活用した場合は「必要な情報が入手しやすくなった」という答えが 50%を占めた。一方で活用していない理由に対しては「忙しくて活用する暇がない」が 47%を占め、使いやすさに関しては「非常に使いやすい」+「使いやすい」が 63%を占めた。役に立っているかの問いに対しては「役に立っている」+「少し役に立っている」が 54%を占めた。

3-2) 介護関係者アンケート

患者が手帳を持参するかという質問に対しては、「手帳を持参される」+「時々持参されるが」28%であった。手帳を活用しているかという質問に対しても、「活用している」+「時々活用している」が 33%であった。活用している部分に関しては「関わっている人一覧」、「かかりつけの医療機関」、「お薬情報」などが多く、活用した場合は「必要な情報が入手しやすくなった」という答えが 37%を占めた。一方で活用していない理由に対しては「忙しくて活用する暇がない」が 38%を占め、使いやすさに関しては「非常に使いやすい」+「使いやすい」が 54%を占めた。役に立っているかの問いに対しては「役に立っている」+「少し役に立っている」が 64%を占めた。

3-3) 家族アンケート

手帳を使用しているかという質問に対しては、「使用している」+「時々持参使用している」が 44%であった。使用していない理由については「使う必要性を感じないた

め」が 29%と最も多かった。使いやすさに関しては「非常に使いやすい」+「使いやすい」が 65%を占めた。使いにくい部分に関しては、「受診前の記入欄」、「全体的に内容が複雑で活用しにくい」が多かった。今後も使用したいかという質問については 64%が使用したいと答えた。追加した方がよいと思われる情報は 84%がないと答え、不要と思われる箇所は 56%がないと答えた。

D. 考察

東京の認知症専門医療機関において、縦断型連携パスの運用の大都市圏における現状と問題点を調査した。まず、他地域の同意率のデータがないので比較はできないが、連携パスの配布の同意率自体が 40%と低かった。面倒そう、診療情報提供書やお薬手帳、製薬会社の作成している資料との区別がわからない、今の時点では介護を利用していない、などといった理由が配布の同意を得られなかった理由として挙げられており、依然として縦断型連携パスの意義の啓発が不十分であると考えられた。配布の同意が得られた例においても、MMSE が平均 19.5、CDR1 が 50% (CDR0.5 が 33%) と軽症例が多く、要介護度もなしが 48%と介護に必要を感じていない例が多い。これは早期受診の啓発が比較的進んでいる大都市圏ならではの傾向と考えられる。介護を利用していない MCI 水準の例が積極的に縦断的連携パスを利用しようとする姿勢とも受け止められるため、この点は今後に繋がるものかもしれない。アンケート結果からはかかりつけ医においても介護施設においても実際には手帳を持参して活用している例は 3 割程度であり、十分に活用されていない現状が

明らかとなった。実際に活用している場合はかかりつけ医では「介護サービス利用状況」が、介護関連では「かかりつけの医療機関」や「お薬情報」が、両方で「関わっている人一覧」が多く、相互の連携に有用であると考えられた。活用した場合は両方で「必要な情報が入手しやすくなった」という回答が多かった。使いやすさや役に立っているかの質問においても両方で半数以上が使いやすく役に立っていると回答している。活用してない理由としては両方で「忙しくて活用する暇がない」が多い。これはすなわち「使えば有用とはわかっているが、実際には面倒で活用する暇がない」という総論賛成各論反対の傾向をあらわしていると考えられる。実際に活用するためのハードルを下げる工夫や活用した場合には何らかのインセンティブを与える工夫が必要なのかもしれない。家族へのアンケートにおいても実際に使用している例は 4 割程度と少ないものの、使いやすさの質問では使いやすいとしている回答が多く今後も使ってみたいと答えており、やはりここでも総論賛成各論反対の傾向が明らかとなった。実際に活用できるように簡便さをさらに工夫し、携行率を高める工夫が必要であろう。

大都市圏と地方都市の差を考えると、例えば高齢者側の人口動態としての違いとしては、大都市圏では高齢者が住み慣れた地域を離れ、子供の近くに転居してくることで形成されるいわゆる「呼び寄せ高齢者」が問題となる一方で、地方の高齢者世帯は、子供世代が地域を離れた親世代が高齢化することで生じる。大都市圏では比較的軽度の段階で受診に至る例が多く、受診者における介護利用率が低い。また専門医療機関

と施設の連携に関しても、東京都内には老年精神医学認定施設が 27 施設存在するのに対し、熊本県内では 4 施設である。熊本県ではいわゆる「熊本モデル」が構築され、拠点病院と関係医療機関、介護施設との連携が盛んである一方、大都市では多くの専門医療機関が存在し、介護施設も多く存在する。大都市圏ではかかりつけ医などに相談せず、直接専門医療機関に来院する例も多い。一方で潜在的には介護を利用していない MCI 水準の例が積極的に縦断的連携パスを利用しようとする姿勢も伺えた。このような大都市圏の地域特性を把握した上で、どのようにして「顔が見える関係」を築くことができるかが、今後の縦断的連携パスの利用促進の課題になると考えられた。

F. 健康危険情報

特記すべきことなし

G. 研究発表

1. 論文発表

Uetani H, Hirai T, Hashimoto M, Ikeda M, Kitajima M, Sakamoto F, Utsunomiya D, Oda S, Sugiyama S, Matsubara J, Yamashita Y. Prevalence and topography of small hypointense foci suggesting microbleeds on 3T susceptibility-weighted imaging in various types of dementia. *Am J Neuroradiol* 34: 984-9, 2012

Honda K, Hashimoto M, Yatabe Y, Kaneda K, Yuki S, Ogawa Y, Matsuzaki S, Tsuyuguchi A, Tanaka H, Kashiwagi H, Hasegawa N, Ishikawa T, Ikeda M. The

usefulness of monitoring sleep talking for the diagnosis of dementia with Lewy bodies. *Int Psychogeriatrics* 25: 851-858, 2013

Ogawa Y, Hashimoto M, Yatabe Y, Kaneda K, Honda K, Yuuki S, Hirai T, Ikeda M. Association of Cerebral Small-Vessel Disease with Delusions in Alzheimer's Disease Patients. *Int J Geriatr Psychiatry* 28: 18-25, 2013

Mori E, Ikeda M, Kosaka K. Donepezil for dementia with Lewy bodies: a randomized, placebo-controlled trial. *Ann Neurol* 72 : 41-52, 2012

Shinagawa S, Yatabe Y, Hashimoto M, Nakayama K, Ikeda M. A comparison of family care infrastructure for demented elderly in inner cities and regional areas in Japan. *Psychogeriatrics* 12 : 159-64, 2012

品川俊一郎, 今村 徹, 矢田部裕介, 橋本 衛, 中山和彦, 池田 学. 3地域における認知症家族介護基盤の比較検討. *精神医学* 54 : 501-507, 2012

繁田雅弘, 河野禎之, 安田朝子, 木之下 徹, 内海久美子, 奥村 歩, 繁信和恵, 川嶋乃里子, 高橋 智, 玉井 顯, 平井 茂夫, 水上勝義, 山田達夫, 八森 淳, 元 永拓郎, 池田 学, 朝田 隆, 本間 昭, 小阪憲司. 専門医を対象とした認知症診療のあり方とその手法に関する面接調査. 老

年精神医学雑誌 23 : 466 - 480, 2012

北川泰久, 中島健二, 池田 学, 三上裕司, 羽生春夫. 座談会 認知症診断・治療の進歩と医療連携. 日本医師会雑誌 141 : 501-513, 2012

丸山貴志, 西田まゆみ, 坂本眞一, 池田 学. 既存の精神科病院をつなぐ地域ネットワーク, 熊本方式の現状と課題. 老年精神医学雑誌 23 : 568-571, 2012

Hasegawa N, Hashimoto M, Koyama A, Ishikawa T, Yatabe Y, Honda K, Yuuki S, Araki K, Ikeda M. Patient-related factors associated with depressive state in caregivers of patients with dementia at home. Journal of American Medical Directors Association 15:371.e15-18

Matsushita M, Ishikawa T, Koyama A, Hasegawa N, Ichimi N, Yano H, Hashimoto M, Fujii N, Ikeda M. Is sense of coherence helpful in coping with caregiver burden for dementia? Psychogeriatrics 26(12): 1967-71, 2014

Ikejima C, Ikeda M, Hashimoto M, Ogawa Y, Tanimukai S, Kashibayashi T, Miyanaga K, Yonemura K, Kakuma T, Murotani K, Asada T. Multicenter population-based study on the prevalence of early onset dementia in Japan: Vascular dementia as its prominent cause. Psychiatry and Clinical Neurosciences 68 : 216-224, 2014

Ikeda M, Mori E, Kosaka K, Iseki E, Hashimoto M, Matsukawa N, Matsuo K, Nakagawa M, on behalf of the Donepezil-DLB Study Investigators. Long-term safety and efficacy of Donepezil in patients with dementia with Lewy Bodies: Results from a 52-week, open-label, multicenter extension study. Dement Geriatr Cogn Disord 36(3-4): 229-241, 2013

Yatabe Y, Hashimoto M, Kaneda K, Honda K, Ogawa Y, Yuki S, Ikeda M. Efficacy of increasing donepezil in mild to moderate Alzheimer's disease patients who show a diminished response to 5 mg donepezil: a preliminary study. Psychogeriatrics 2013; 13(2): 88-93.

Hasegawa N, Hashimoto M, Yuki S, Honda K, Yatabe Y, Araki K, Ikeda M. Prevalence of delirium among outpatients with dementia. Int Psychoteriatr; 25(11): 1877-1883, 2013

Ichimi N, Hashimoto M, Matsushita M, Yano H, Yatabe Y, Ikeda M. The relationship between primary progressive aphasia and neurodegenerative dementia. East Asian Arch Psychiatry; 23(3): 120-125, 2013

Adachi H, Ikeda M, Komori K, Shinagawa S, Toyota Y, Kashibayashi T, Ishikawa T, Tachibana N. Comparison of

the utility of everyday memory test and the Alzheimer's Disease Assessment Scale-Cognitive part for evaluation of mild cognitive impairment and very mild Alzheimer's disease. *Psychiatry Clin Neurosci*; 67(3): 148-153, 2013

Honda K, Hashimoto M, Yatabe Y, Kaneda K, Yuki S, Ogawa Y, Matsuzaki S, Tsuyuguchi A, Tanaka H, Kashiwagi H, Hasegawa N, Ishikawa T, Ikeda M. The usefulness of monitoring sleep talking for the diagnosis of dementia with Lewy bodies. *Int Psychogeriatrics*; 25: 851-858, 2013

Ito H, Hattori H, Kazui H, Taguchi M, Ikeda M. Integration psychiatric services into comprehensive dementia care in the community. *Open J Psychiatr* [in press]

Hashimoto M, Sakamoto S, Ikeda M. Clinical features of delusional jealousy in patients with dementia. *J Clin Psychiatry* [in press]

Ikeda M, Mori E, Matsuo K, Nakagawa M, Kosaka K. Donepezil for dementia with Lewy bodies: a randomized placebo-controlled, confirmatory phase III trial. *Alzheimer's Research & Therapy* 7 : 4. eCollection.

Mori E, Ikeda M, Nagai R, Matsuo K, Nakagawa M, Kosaka K. Long-term donepezil use for dementia with Lewy

bodies: results from an open-label extension of phase III trial. *Alzheimer's Research & Therapy* 7 : 5. eCollection.

Hasegawa N, Hashimoto M, Koyama A, Ishikawa T, Yatabe T, Honda K, Yuuki S, Araki K, Ikeda M. Patient-related factors associated with depressive state in caregivers of patients with dementia at home. *Journal of the American Medical Directors Association* 15:371.e15-18

Sakamoto F, Shiraishi S, Yoshida M, Tomiguchi S, Hirai T, Namimoto T, Hashimoto M, Ikeda M, Uetani H, Yamashita Y. Diagnosis of dementia with Lewy bodies: diagnostic performance of combined ¹²³I-IMP brain perfusion SPECT and ¹²³I-MIBG myocardial scintigraphy. *Ann Nucl Med* 28(3):203-211, 2014

Fukuhara R, Ghosh A, Fuh JL, Dominguez J, Ong PA, Dutt A, Liu YC, Tanaka H, Ikeda M. Family history of frontotemporal lobar degeneration in Asia - an international multi-center research. *Int Psychogeriatr* 2014

Matsushita M, Ishikawa T, Koyama A, Hasegawa N, Ichimi N, Yano H, Hashimoto M, Fujise N, Ikeda M. Is sense of coherence helpful in coping with caregiver burden for dementia? *Psychogeriatrics* 14 : 87-92, 2014

Matsushita M, Koyama A, Ushijima H, Mikami A, Katsumata Y, Kikuchi Y,

- Ichimi N, Jono T, Fujise N, Ikeda M. Sleep Duration and its Association with Sleepiness and Depression in Ronin-sei Preparatory School Students. *Asian Journal of Psychiatry* 9 : 61-66, 2014
- Koyama A, Fukunaga R, Abe Y, Nishi Y, Nakagawa Y, Fujise M, Ikeda M. Item non-response on self-reported depression screening questionnaire among community-dwelling elderly. *Journal of Affective Disorders*. 162 : 30-3, 2014
- Koyama A, Matsushita M, Ushijima H, Jono T, Ikeda M. Association between depression, examination-related stressors, and Sense of Coherence: the “ronin-sei” study. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* 68 : 441-447, 2014
- 池田 学. 前頭側頭葉変性症の症候学. 日常臨床に必要な認知症症候学 (池田 学編) . 新興医学出版社, 東京, 50-62, 2014
- 池田 学. 認知症原因疾患の臨床診断を現場で行う 予測を立てるための症候学 (木之下 徹編) . 中山書店, 東京, 103-108, 2014
- 池田 学. 医療と介護の縦断型連携パス. 在宅の高齢者を支える-医療・介護・看取り-*Advances in Aging and Health Research* 2013. 長寿科学医療財団, 愛知, 117-124, 2014
- 池田 学, 宇野準二. もの忘れを主訴として, その後アルツハイマー病と診断され, 薬物療法を開始された患者. 精神科医×薬剤師クロストークから読み解く精神科薬物療法 (鈴木利人, 渡邊衡一郎, 松田公子, 林 昌洋編) . 南山堂, 東京, 275-279, 2014
- 池田 学. レビー小体型認知症におけるBPSD の治療. レビー小体型認知症の診断と治療 (小阪憲司編) , *harunosora*, 川崎, 2014
- 長谷川典子, 池田 学. せん妄. 日常臨床に必要な認知症症候学 (池田 学編) . 新興医学出版社, 東京, 81-87, 2014
- 石川智久, 西 良知, 池田 学. 周辺症状 (BPSD) の予防, 早期発見, 家族への説明. 内科医のための認知症診療はじめの一步 (浦上克哉編) . 羊土社, 東京, 224-228, 2014
- 西 良知, 石川智久, 池田 学. 精神医学的診察 うつ状態, BPSD の評価. 内科医のための認知症診療はじめの一步 (浦上克哉編) . 羊土社, 東京, 109-114, 2014
- 西 良知, 石川智久, 池田 学. 周辺症状 (BPSD) . 内科医のための認知症診療はじめの一步 (浦上克哉編) . 羊土社, 東京, 180-191, 2014
- 池田 学. 認知症に対する自立と支援. 岩波講座コミュニケーションの認知科学第5巻 「自立と支援」 (安西祐一郎編) . 岩波書店, 東京, 11-28, 2015
- 池田 学. レビー小体型認知症におけるBPSD の治療. レビー小体型認知症の診断と治療 (小阪憲司編) . *harunosora*, 川崎, 129-140, 2014

- 橋本 衛. 精神症状 (BPSD) への対応. 日本医師会雑誌 141(3): 561-564, 2012
- 橋本 衛. FTLD に特有の BPSD 発生メカニズムと具体的対処法. 老年精神医学雑誌 23(suppl.I):89-94, 2012
- 橋本 衛. 脱抑制行動、常同行動. Clinician 59: 37-41, 2012
- 津野田尚子、橋本 衛. レビー小体型認知症症例におけるカプグラ症候群. 一症候学的経過に注目して. 臨床精神医学 41(6), 707-713, 2012
- 橋本 衛. 意味性認知症. 精神科 22(1): 97-102, 2013
- 橋本 衛. 薬物療法の立場から: 向精神薬特に抗精神病薬の使用をどう考えるか. 認知症の最新医療 3(2): 79-84, 2013
- 橋本 衛. アルツハイマー型認知症に伴う脳血管障害. 老年精神医学雑誌 24(4): 366-374, 2013
- 橋本 衛、池田 学. 認知症ガイドライン 1. アルツハイマー病. 画像診断 33(10): 1167-1181, 2013.
- 橋本 衛、池田 学. 認知症患者における嫉妬妄想の神経基盤. 神経心理学 29(4): 266-277, 2013
- Hashimoto M, Sakamoto S, Ikeda M. Clinical features of delusional jealousy in patients with dementia. J Clin Psychiatry [in press]
- Hasegawa N, Hashimoto M, Koyama A, Ishikawa T, Yatabe T, Honda K, Yuuki S, Araki K, Ikeda M. Patient-related factors associated with depressive state in caregivers of patients with dementia at home. Journal of the American Medical Directors Association 15:371.e15-18
- Matsushita M, Ishikawa T, Koyama A, Hasegawa N, Ichimi N, Yano H, Hashimoto M, Fujii N, Ikeda M. Is sense of coherence helpful in coping with caregiver burden for dementia? Psychogeriatrics 14 : 87-92, 2014
- Sakamoto F, Shiraishi S, Yoshida M, Tomiguchi S, Hirai T, Namimoto T, Hashimoto M, Ikeda M, Uetani H, Yamashita Y. Diagnosis of dementia with Lewy bodies: diagnostic performance of combined ¹²³I-IMP brain perfusion SPECT and ¹²³I-MIBG myocardial scintigraphy. Ann Nucl Med 28(3):203-211, 2014
- Nishio Y, Hashimoto M, Ishii K, Ito D, Mugikura S, Takahashi S, Mori E. Multiple thalamo-cortical disconnections in anterior thalamic infarction: complications for thalamic mechanisms of memory and language. Neuropsychologia. 2014; 53: 264-273.

橋本 衛, 眞鍋雄太, 森 悦朗, 博野信次, 小阪憲司, 池田 学. 認知機能変動評価尺度 (Cognitive Fluctuation Inventory : CFI) の内容妥当性と評価者間信頼性の検討. *Brain and Nerve* 66 : 1463-1469, 2014

宮川雄介, 橋本 衛, 池田 学. 軽度認知障害の長期予後. *臨床精神医学* 43 : 1475-1480, 2014

畑田 裕, 橋本 衛, 池田 学. 診断の進め方
臨床と研究 91 : 873-878, 2014

Fukuhara R., Ghosh A, Fuh JL, et al. Family history of frontotemporal lobar degeneration in Asia – an international multi-center research. *International Psychogeriatrics* 26(12): 1967-71, 2014

石川智久. シンポジウム3「誤診」「認知症の過剰診断・過小評価」
精神科診断学 7巻1号 Sep.2014 Vol.1 No.1 pp.43-49, 日本精神科診断学会

矢田部裕介, 石川智久, 池田 学. ガランタミン投与により精神症状の改善をみたアルツハイマー病の一例. *Cogn Dement* 2012; 11: 341-346.

檜村仁美, 矢田部裕介, 宮川雄介, 田中さくらこ, 兼田桂一郎, 牛島洋景, 宮谷高史, 池田 学. 右視床背内側核病変の関与が推定された音楽性幻聴に carbamazepine が奏効した 1 例. *精神科* 2012; 21(4): 468-473.

品川俊一郎, 今村 徹, 矢田部裕介, 橋本 衛, 中山和彦, 池田 学. 3 地域における認知症家族介護基盤の比較検討—専門外来を受診する患者の初診時同居者・同伴者に注目して—. *精神医学* 2012; 54(5): 501-507.

矢田部裕介, 橋本 衛. 認知症者で性的行動の亢進がみられた時には、どのように対応し、治療すればよいでしょうか?. 中島健二・和田健二, 編. *認知症診療 Q&A*. 東京: 中外医学社, 2012: 167-169.

矢田部裕介, 池田 学. 前頭側頭型認知症 vs. 躁病. *精神科* 23: 631-636, 2013.

藤瀬 昇, 矢田部裕介, 池田 学. コタール症候群と認知症の抑うつ. *Dementia Japan* 28 : 245-251, 2014

Shimodera S, Imai Y, Kamimura N, Morokuma I, Fujita H, Inoue S, Furukawa TA: Mapping hypofrontality during letter fluency task in schizophrenia; a multi-channel near-infrared spectroscopy study. *Schizophr Res* 2012 ; 136:63-69.

Kubo T, Sato T, Noguchi T, Kitaoka H, Yamasaki F, Kamimura N, Shimodera S, Iiyama T, Kumagai N, Kakinuma Y, Diedrich A, Jordan J, Robertson D, Doi LY: Influence of donepezil on cardiovascular system – possible therapeutic benefits for heart failure – Donepezil Cardiac TESt Registry(DOCTER) Study. *The Journal of*

Cardiovascular Pharmacology

2012;60:310-314.

Shimodera S, Imai Y, Kamimura N,

Morokuma I, Fujita H, Inoue S,

Furukawa TA: Near-infrared spectroscopy (NIRS) of bipolar disorder may be distinct from that of unipolar depression and of healthy controls. *Asia-Pac Psychiatry*. in press

上村直人, 福島章江, 今城由里子, 諸隈陽子, 下寺信次: 認知症の自動車運転をどう考えるか—背景疾患別の運転行動の特徴と運転中断について—高齢者の運転をめぐって *Geriat.Med.*50(2):2012 ; 151-154

上村直人. 認知症者の自動車運転 特集 認知症 UPDATE 日本医師会雑誌 第141巻第3号,2012 P560

上村直人, 井上新平: 初老期アルツハイマー病患者への診断告知を行った1例. *精神科* 第20巻第2号,2012 : 221-227

上村直人, 福島章恵: 認知症性疾患における未治療期間 (DUP) 概念の適応. *精神科* 第20巻第6号,2012 ; 654-661.

上村直人, 福島章恵, 今城由里子, 下寺信次: 認知症と自動車運転—医療からみた認知症患者の運転研究の現状と対策— *Progress in Medicine* 第32巻第8号,2012 ; 1637-1642

上村直人, 谷勝良子, 井関美咲, 諸隈陽子 認

知症患者の自動車運転と権利擁護 社会資源と社会支援の活用 池田学編 認知症臨床の最前線 医歯薬出版社 2012 207-213 東京

上村直人: *Topics* 高齢ドライバーと講習予備検査 池田学編 認知症臨床の最前線 医歯薬出版社 2012 214 東京

上村直人, 井関美咲: VI.社会的対応について (自動車運転) 認知症診療 Q&A92 中島健二、和田健二編 中外医学社 2012 256-258 東京

上村直人, 諸隈陽子: VI.社会的対応について (介護保険の書き方) 認知症診療 Q&A92 中島健二、和田健二編 中外医学社 2012 259-261 東京

上村直人: 高次脳機能障害と交通事故, 高齢者の高速道路教本 コラム 高速道路関連社会貢献協議会 西山啓編 2012 P19

上村直人: もの忘れと運転, 高齢者の高速道路教本 コラム 高速道路関連社会貢献協議会 西山啓編 2012 P32

上村直人: 薬と運転について, 高齢者の高速道路教本 コラム 高速道路関連社会貢献協議会 西山啓編 2012 P33

上村直人, 福島章恵. 認知症と自動車運転. *The Japanese Journal of Rehabilitation Medicine* 50(2) : 87-92, 2013.

上村直人, 福島章恵. 5 : 法律的諸問題

車の運転.「認知症ハンドブック」中島健二、
天野直二、下濱俊、富本秀和、三村将編集
医学書院 東京 433-441, 2013.

上村直人, 福島章恵. <資料>認知症と自
動車運転-運転中断におけるカウンセリン
グ的アプローチの重要性-. 交通科学
44(1): 21-25, 2013

上村直人、大石りさ、池田 学. IM[高齢者
辞典]第 23 巻第 10 号 医学書院
P849-852, 2013.

上村直人. レビー小体型認知症の臨床診断
と薬物治療の変遷-疾患概念の変遷と治療
の進歩- 精神科 22(4): 441-451, 2013.

井関美咲,上村直人: 前頭側頭葉変性症・ピッ
ク病～人格障害・行動障害を伴う認知症 高
齢者のこころとからだ事典大川一郎編 中
央法規出版 東京 156-157,2014

上村直人: 認知症患者の自動車運転と社会参
加 高次脳機能障害者の自動車運転再
開とリハビリテーション1 蜂須賀研二編
P46-54 金芳堂 東京 2014

上村直人, 福島章恵, 今城由里子, 大石りさ: 第
4 章 症候学から生活支援へ 自動車運転
日常臨床に必要な認知症症候学 池田学監
修 編集 P173-177 新興医学出版
東京 7 月刊 2014

井上新平,上村直人: 高齢者のメンタルヘルス
総論 心と社会 158 45 巻 4 号 P 9 4 - 9
8 日本精神衛生会 158 東京 2014

上村直人: 編集室への手紙 抑肝散で見られ
た髪の毛の黒髪化について 精神医学 4 月号
56 巻 330-331 医学書院 東京 2014

上村直人, 藤戸良子, 大石りさ, 諸隈陽子: 認知
症と運転 高知県医師会医学雑誌第
19 巻 1 号 P72-81 高知県医師会 高知
2014

上村直人, 明神恵美, 大石りさ, 諸隈陽子, 福島
章恵, 井上新平: 若年期アルツハイマー病の在
宅ケア破綻予防と家族史的アプローチの試
み～ケアマネのエンパワーメント向上を目的
とした生活臨床的試み 老年期の精神医
療における多職種協働の実践例報告 老年
精神医学雑誌 4. 実践例報告③ P685-691
ワールドプランニング 東京 2014

上村直人, 永野志歩, 今城由里子, 泉本雄司:
Brain Science 老年期発達障害に関する精神
医学的研究の現状と課題 精神科 Vol. 25NO
6 P 654-660 科学評論社 東京 2014

Yasuno F, Tanimukai S, Sasaki M,
Hidaka S, Ikejima C, Yamashita F,
Kodama C, Mizukami K, Michikawa M,
Asada T. Association between cognitive
function and plasma lipids of the elderly
after controlling for apolipoprotein E
genotype. Am J Geriatr
Psychiatry .20(7):574-583, 2012

Yasuno F, Tanimukai S, Sasaki M,
Ikejima C, Yamashita F, Kodama C,
Mizukami K, Asada T.

Combination of antioxidant supplements improved cognitive function in the elderly. *J Alzheimers Dis.* 32(4):895-903, 2012

園部直美, 谷向 知. 【認知症の摂食・嚥下障害 -原因疾患別の特徴とアプローチ-】レビー小体型認知症. *地域リハビリテーション* 7(6): 453-457, 2012

谷向 知, 坂根真弓, 酒井ミサヲ, 吉田 卓, 藤田君子, 豊田泰孝, 小森憲治郎. 介護うつ. *老年社会科学* 34 (1) : 511-515, 2013

Ikejima C, Ikeda M, Hashimoto M, Ogawa Y, Tanimukai S, Kashibayashi T, Miyanaga K, Yonemura K, Kakuma T, Murotani K, Asada T. A multicenter population-based study on the prevalence of early-onset dementia in Japan: Vascular dementia as its prominent cause. *Psychiatry and Clinical Neurosciences* (in press)

小森憲治郎, 北村伊津美, 園部直美, 谷向 知. 意味性認知症と語義失語. *Clinical Neuroscience* 31(7) :791-795, 2013

小森憲治郎, 谷向 知. 認知症によるコミュニケーションの障害に対する評価のポイント、言語治療の組み立て方や技法について教えてください。失語症 Q&A 検査結果のみかたとリハビリテーション(種村 純編), 新興医学出版社, 東京, pp176-179,2013.

谷向 知. 通所サービスやリハビリテーションに関する説明。「実践認知症診療：認知症の人と家族・介護者を支える説明」, 繁田

雅弘編, 医薬ジャーナル社, 大阪, pp65-69, 2013

小森憲治郎, 谷向 知, 数井裕光, 上野修一. 意味性認知症の臨床像から. *基礎心理学研究* 33(1): 1-9, 2014.

谷向 知. 症候学から認知症の人を理解する. 「日常診療に必要な認知症症候学, 池田学編, 新興医学出版(東京)2014;pp178-180

Mori T, Shimada H, Shinotoh H, Hirano S, Eguchi Y, Yamada M, Fukuhara R, Tanimukai S, Kuwabara S, Ueno S, Suhara T. Apathy correlates with prefrontal amyloid beta deposition in Alzheimer's disease. *J Neurol Neurosurg Psychiatry.* 2014 ;85: 449-455

繁信和恵. 認知症疾患医療センターの役割. *臨床精神医学* 41 (12) : 1705-1714, 2012.

繁信和恵, 柏木一恵, 比良美千代, 山本めぐみ, 駒野敬行, 谷口典男. 低所得者の認知症医療と施設介護の現状と課題. *老年精神医学雑誌* 23 (5) : 586-591, 2012.

樋上容子, 樋口明里, 山川みやえ, 松浦和江, 竹村有由, 繁信和恵, 周藤俊治, 牧本清子. リスペリドン中止前後の頭部外傷後遺症患者の活動性の変化～IC タグモニタリングシステムによる客観的評価～(短報). *老年精神医学雑誌.* 24(4): 393-397, 2013

Nishikata S, Yamakawa M, Suto S,

Shigenobu K, Makimoto K. Degree of ambulation and factors associated with the median distance moved per day in Alzheimer's disease patients. International Journal of Nursing Practice. Accepted for publication on February, 2013.

Nonaka T, Yamakawa M, Suto S, Shigenobu K, Makimoto K. Quantitative evaluation of changes in the clockwatching behavior of a semantic dementia patient. American Journal of Alzheimer's Disease and Other Dementias. Accepted for publication on January, 2013.

繁信和恵. 大都市における認知症連携の課題. 日本社会精神医学雑誌. 22(4):559-567, 2013.

Nonaka T, Suto S, Yamakawa M, Shigenobu K, Makimoto K. Quantitative evaluation of changes in the clock-watching behavior of a patient with semantic dementia. Am J Alzheimers Dis Other Demen. 2014 Sep;29(6):540-547.

Yamakawa M, Yoshida Y, Higami Y, Shigenobu K, Makimoto K. Caring for early-onset dementia with excessive wandering of over 30 kilometres per day: a case report. Psychogeriatrics. 2014 Dec;14(4):255-260.

繁信和恵. 認知症の言語症状の診方と代表

的徴候. 老年精神医学雑誌. 2014;25:32-36.

繁信和恵. 認知症患者の退院へ向けた連携 (前半). 精神科看護. 2014;41(1):70-78.

繁信和恵. 認知症患者の退院へ向けた連携 (後半). 精神科看護. 2014;41(2):72-79.

Tagai K, Nagata T, Shinagawa S, Tsunon, Ozone M, Nakayama K.. Mirtazapine improves visual hallucinations in Parkinson's disease: a case report. Psychogeriatrics. 2013 Jun;13(2):103-7.2012.

角徳文、繁田雅弘、エビデンスに基づく薬物治療～向精神薬のエビデンス 老年精神医学雑誌、24巻5号 2013;457-463

角徳文、繁田雅弘、抗認知症薬使用の現状と課題 (特集 認知症薬物療法の現状と課題) 日本精神科病院協会雑誌 32(4), 323-328, 2013-04

Shinagawa S, et al. Psychosis in Frontotemporal Dementia. Journal of Alzheimer's disease 42: 485-499, 2014.

Shinagawa S, et al. Non-pharmacological Management for Patients with Frontotemporal Dementia –a systematic review. Journal of Alzheimer's disease, 2015.

品川俊一郎, ほか. 本邦における FTD に対する off-label 処方の実態について. *Dementia Japan*, 2015. in press.

Inamura K, Tsuno N, Shinagawa S, et al. Correlation between cognition and symptomatic severity in patients with late-life somatoform disorders. *Agin and Mental Health* 29: 1-6, 2014.

Inamura K, Sinagawa S, Tsuno N, et al. Cognitive Dysfunctions in Patients with Late-Life Somatic Symptom Disorder: A Comparison According to Disease Severity. *Psychosomatic*, 2015. in press.

品川俊一郎, ほか. アセチルコリンと神経疾患研究の現在地を知る アルツハイマー病治療. *Brain and Nerve* 66: 507-516, 2014.

2. 学会発表

Ikeda M. Symposium: Dementia from a cross-cultural perspective. The outreach intervention for early-onset dementia by multi-disciplinary staffs in Japan. Biennial meeting of World Federation of Neurology, Research Group of Aphasia & Cognitive Disorders, Hyderabad, India, December 9-12, 2012

Ikeda M. Session: Alzheimer's disease. Therapeutic Strategies in Dementia with Lewy bodies. 28th International Kumamoto Medical Bioscience Symposium, Kumamoto, November 15-16,

2012

Tsuyuguchi A, Hashimoto M, Yatabe Y, Ikeda M. Depression and apathy in the four major dementias. Asian Workshop on Geriatric Psychiatry, Tokyo, September 15, 2012

(Keynote Address) Ikeda M. Older Adults and Mental Health in the Face of Natural Disasters – Tohoku Tsunami Disaster. International Psychiatric Association International Meeting 2012, Cairns, Australia, September 7-11, 2012

(Poster) Hasegawa N, Koyama A, Hashimoto M, Ishikawa T, Yatabe Y, Kaneda K, Honda K, Yuuki S, Ogawa Y, Araki K, Ikeda M. Depressive state in caregivers of patients with dementia. International Psychiatric Association International Meeting 2012, Cairns, Australia, September 7-11, 2012

Ikeda M. Symposium: Vascular cognitive impairment. Vascular lesions in neuro-degenerative dementia. 6th Congress of Asian Society Against Dementia, Kuala Lumpur, June 14-16, 2012

Ikeda M. Symposium: Psychosocial intervention. Outreach intervention for early-onset dementia by multi-disciplinary staffs. 6th Congress of Asian Society Against Dementia, Kuala

Lumpur, June 14-16, 2012

池田 学. 褥瘡の危険因子を作らないための取り組み.(シンポジウム) 「認知症の予防について」第 15 回日本褥瘡学会学術集会, 2013 年 7 月 19 日 (発表 19 日), 兵庫県神戸市.

池田 学. 「若年性認知症を地域で支えるために」(基調講演) 第 16 回日本老年行動科学会, 2013 年 8 月 31 日, 愛媛県松山市.

池田 学. 認知症の病態と治療薬の動向 (シンポジウム)「レビー小体型認知症と前頭側頭葉変性症の病態と治療」第 23 回日本臨床精神神経薬理学会・第 43 回日本神経精神薬理学会合同年会 2013 年 10 月 24-26 日, 沖縄県宜野湾市.

Hashimoto M, Ogawa Y, Yatabe Y, Yuki S, Imamura T, Kazui H, Fukuhara R, Kamimura N, Shinagawa S, Mizukami K, Mori E, Ikeda M. Relationship between dementia severity and behavioral and psychological symptoms of dementia in dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease patients. 16th International Congress of International psychogeriatrics association, Seoul Korea, October 1-4, 2013

Ikeda M. Symposium: Frontotemporal lobar degeneration in Asia. FTLD in Asia – overview. International Psychiatric Association 16th International Congress, Seoul, Korea, October 1-4, 2013

Ikeda M. Symposium: Dementia care. Community outreach services for dementia: Basic requirements. 7th Congress of Asian Society Against Dementia, Cebu city, Philippines, October 9-12, 2013

Ikeda M. ASAD Joint Symposium on Dementia: Frontotemporal Dementia in Asia. 14th Asian & Oceanian Congress of Neurology, The Venetian Macao, Macao, China, March 2-5, 2014

Ikeda M. Keynote address: Overview on the diagnosis and management of frontotemporal lobar degeneration. 9th Annual Meeting of Taiwanese Society of Geriatric Psychiatry, Chung Shan Medical University, Taichung city, Taiwan, March 16, 2014

(Plenary lecture) Ikeda M. Fronto-temporal dementia. 8th Congress of Asian Society Against Dementia, Colombo, Sri Lanka, November 14-16, 2014

(Symposium) Ikeda M. Symposium: Epidemiology & Risk. Epidemiology of early-onset dementia. 8th Congress of Asian Society Against Dementia, Colombo, Sri Lanka, November 14-16, 2014

(Symposium) Ikeda M. Symposium:
Young onset dementia: need for more
research. Care situations for young onset
dementia in Asian countries.
International Psychiatric Association
2014 International Meeting, Beijing,
China, October 23-26, 2014

Hashimoto M, Fukuhara R, Ichimi I,
Ogawa Y, Ikeda M. The relationship
between abstract attitude and
stereotyped behavior in patients with
frontotemporal lobar degeneration
(FTLD). 9th International Conference on
Frontotemporal Dementias, Vancouver
Canada, October 23-26, 2014.

(シンポジウム) 池田 学. シンポジウム:
び慢性白質障害の臨床的鑑別と病理. 精神
症状から鑑別する白質障害. 第 55 回日本神
経学会総会, 福岡市, 5 月 24 日, 2014

(教育セミナー) 池田 学. 日本神経学会
第 2 回メディカルスタッフ教育セミナー:
認知症の病態の理解に基づく合理的なケ
ア・リハビリテーション. 前頭側頭葉変性
症の病態とケア・リハビリテーション. 第
55 回日本神経学会総会, 福岡市, 5 月 24
日, 2014

(シンポジウム) 池田 学. シンポジウム:
精神疾患の医療計画への追加の意義と効果
—地域医療連携の必要生と可能性と効果の
観点から考察する. 認知症と地域連携. 第

110 回日本精神神経学会学術総会, 横浜市,
6 月 26-28 日, 2014

(シンポジウム) 池田 学. シンポジウム:
認知症と高次脳機能障害. 認知症の医療連
携 —熊本モデルの概要と今後の課題—. 第
64 回日本病院学会, 高松市, 7 月 3-4 日,
2014

(基調講演) 池田 学. 「認知症疾患医療
センターの現状と今後の課題」. 第 2 回認
知症疾患医療センター全国研修会, 砂川市,
9 月 13 日, 2014

(市民公開講座) 池田 学. 心の病気の臨
床 求められていること、脳科学にできる
こと. 「認知症の臨床: 求められているこ
と、脳科学にできること」. 第 37 回日本
神経科学会, 京都, 9 月 21 日, 2014

(特別講演) 池田 学. 「認知症の人と家
族を支える地域連携」. 第 20 回全国の集い
in 岡山 2014, 在宅ケアを支える診療所・市
民全国ネットワーク, 9 月 14-15 日, 岡山
市

(特別講演) 池田 学. 認知症の初期発見
からケア推進まで～認知症独居高齢者をど
う支えるか～「認知症の治療と予防のため
の地域連携 —熊本モデルを中心に—」. 第
4 回認知症予防学会, 江戸川区, 9 月 27-28
日, 2014

(パネリスト) 池田 学. 「認知症の治療
と予防のための地域連携 —熊本モデルを
を中心に—」. 第 15 回介護保険推進全国サミ
ット in くまもと, 熊本, 10 月 30-31 日,
2014

(市民公開講座) 池田 学. 認知症の予防・治療・介護. 「認知症の予防・治療・介護と地域連携」. 第 73 回日本公衆衛生学会, 宇都宮, 11 月 7 日, 2014

(シンポジウム) 池田 学. 認知症予防とケア-適時適切な支援の提供. 「認知症の地域連携とアウトリーチ」. G7 Dementia Summit Legacy Event, 東京, 11 月 5-6 日 東京

(シンポジウム) 池田 学. シンポジウム. 「認知症の言語症状を徹底的に討論する」. 第 38 回日本高次脳機能障害学会学術総会, 仙台, 11 月 28-29 日, 2014

(教育講演) 池田 学. 「前頭側頭葉変性症」. 第 33 回日本認知症学会, 横浜, 11 月 29-31 日, 2014

橋本 衛. 認知症治療の新展開. 「FTLD 治療の現状と今後の展開」. 第 17 回日本神経精神医学会シンポジウム、東京、12 月 7-8 日、2012

橋本 衛、矢田部裕介、遊亀誠二、一美奈緒子、石川智久、池田学. 「レビー小体型認知症とアルツハイマー病の記憶障害の比較検討-虚再認に注目して-」. 第 36 回日本高次脳機能障害学会、宇都宮、11 月 22-23 日、2012

橋本 衛、池田 学. 認知症患者における嫉妬妄想の臨床特徴. 第 17 回日本神経精神医学会、東京、12 月 7-8 日、2012

Hashimoto M, Ogawa Y, Yatabe Y, Yuki S,

Imamura T, Kazui H, Fukuhara R, Kamimura N, Shinagawa S, Mizukami K, Mori E, Ikeda M. Relationship between dementia severity and behavioral and psychological symptoms of dementia in dementia with Lewy bodies and Alzheimer's disease patients. 16th International Congress of International psychogeriatrics association, Seoul Korea, October 1-4, 2013.

橋本 衛. BPSD の発現機序の解明と治療法・対応法 ; Up to date. 「認知症に伴う嫉妬妄想の臨床特徴とその対応法」. 第 28 回日本老年精神医学会総会シンポジウム、大阪、6 月 4-6 日、2013

橋本 衛. 認知症の臨床-予防、診断、治療のコツ-. 「認知症の症候学-レビー小体型認知症と前頭側頭葉変性症-」. 第 109 回日本精神神経学会学術総会ワークショップ、福岡、5 月 23-25 日、2013

橋本 衛. BPSD に対する薬物治療. 「BPSD に対する薬物療法において抗精神病薬は必要である」. 第 55 回日本老年医学会学術集会ディベートセッション、大阪、6 月 4-6 日、2013

橋本 衛. 認知症治療の新展開. 「FTLD 治療の現状と今後の展開」. 第 17 回日本神経精神医学会シンポジウム、東京、12 月 7-8 日、2012

橋本 衛、矢田部裕介、遊亀誠二、一美奈緒子、石川智久、池田学. 「レビー小体型

認知症とアルツハイマー病の記憶障害の比較検討—虚再認に注目して—。第 36 回日本高次脳機能障害学会、宇都宮、11 月 22—23 日、2012

橋本 衛、池田 学。認知症患者における嫉妬妄想の臨床特徴。第 17 回日本神経精神医学会、東京、12 月 7—8 日、2012

Fukuhara R, Tanaka H, Hatada Y, Ishikawa T, Yatabe Y, Yuki S, Shiraishi S, Hirai T, Hahimoto M, Ikeda M. Neural correlates of abnormal eating behaviors in semantic dementia: preliminary semi-quantitative analysis . The 9th International Conference in Frontotemporal Dementias, Oct 23-25, 2014, Vancouver, Canada

Fukuhara R, Shinagawa S, Hashimoto M, Tanaka H, Hatada Y, Miyagawa Y, Kawahara K, Yuki S, Ikeda M. The differences in characteristics of abnormal eating behaviors in semantic dementia between right and left dominant temporal lobe atrophy. 8th Annual Congress of the Association of Sri Lankan Neurologists and 8th International Congress of the Asian Society Against Dementia, Colombo, Sri Lanka, 14-16 November 2014

甲斐恭子, 天野浩一郎, 田中 響, 畑田裕, 福原竜治, 遊亀誠二, 石川智久, 橋本衛, 池田 学。アルツハイマー病における食行動障害についての調査。第 33 回日本

認知症学会, 横浜, 11 月 29-31 日, 2014.

「就学後に視知覚認知障害が明らかとなった発達障害の一例」

北村 伊津美, 堀内 史枝, 福原 竜治, 石川智久, 上野 修一, 池田 学

高次脳機能研究 34 巻 1 号
Page70-71(2014.03)

「SMQ を用いた軽度アルツハイマー病患者の生活障害の検討 軽度血管性認知症患者との差異も含めて」

田中 響, 橋本 衛, 福原 竜治, 石川 智久, 矢田部 裕介, 遊亀 誠二, 松崎 志保, 露口 敦子, 畑田 裕, 池田 学

老年精神医学雑誌 25 巻増刊 II
Page160(2014.05)

「認知症の介護負担感と Sense of coherence の関係」

松下 正輝, 石川 智久, 小山 明日香, 長谷川 典子, 一美 奈緒子, 池田 学

老年精神医学雑誌 25 巻増刊 II
Page217(2014.05)

「早期診断・早期支援に向けた『認知症初期集中支援チーム』の取り組み 荒尾市における初期集中支援の実際 チーム員の立場から(解説)」

宗 久美(熊本県認知症疾患医療センター)

認知症予防研究 18 巻 1 号
Page42-48(2014.07)

「三大認知症における重症度と家族の介護負担感の関連」

小山 明日香, 石川 智久, 松下 正輝, 長谷

川 典子, 橋本 衛, 池田 学
日本社会精神医学会雑誌 23 卷 3 号
Page263(2014.08)

「認知症患者における体感温度調査 認知
症患者は寒がりになるか」

甲斐 恭子, 橋本 衛, 石川 智久, 遊亀 誠
二, 田中 響, 畑田 裕, 池田 学
日本神経心理学会総会プログラム・予稿集
38 回 Page106(2014.08)

「認知症地域連携における荒尾市歯科医師
会の取り組み」

田中 みどり(荒尾市歯科医師会)
老年 歯 科 医 学 29 卷 2 号
Page85-86(2014.09)

田中 響, 橋本 衛, 福原竜治, 石川智久,
矢田部裕介, 兼田桂一郎, 遊亀誠二, 本
田和揮, 小川雄右, 松崎志保, 露口敦子, 畑
田裕, 池田 学. 若年性アルツハイマー病
患者における精神行動症状と認知症重症度
との関連. 第 28 回日本老年精神医学会,
2013 年 6 月 4-6 日, 大阪.

畑田 裕, 橋本 衛, 石川智久, 矢田部裕
介, 福原竜治, 遊亀誠二, 田中 響, 松崎
志保, 露口敦子, 池田 学. アルツハイ
マー病におけるアミロイドアンギオパチー
と臨床症候との関連 —多発性の微小出血
を認めたアルツハイマー病症例を通して—.
第 28 回日本老年精神医学会, 2013 年 6 月
4-6 日, 大阪.

園部直美, 松本光央, 清水秀明, 豊田泰孝,
森 崇明, 品川俊一郎, 足立浩祥, 石川智

久, 福原竜治, 谷向 知, 池田 学, 上野修
一. 地域における認知症患者の高齢介護者
の実態について. 第 28 回日本老年精神医
学会, 2013 年 6 月 4-6 日, 大阪.

北村伊津美, 福原竜治, 谷向 知, 石川智
久, 吉田 卓, 上野修一, 池田 学. 発症後
10 年を経過した進行性非流暢性失語の発
話特徴とその変化. 第 14 回日本言語聴覚
学会, 2013 年 6 月 28-29 日, 札幌.

(Poster) Hasegawa N, Koyama A,
Hashimoto M, Ishikawa T, Yatabe Y,
Kaneda K, Honda K, Yuuki S, Ogawa Y,
Araki K, Ikeda M. Depressive state in
caregivers of patients with dementia.
International Psychiatric Association
International Meeting 2012, Cairns,
Australia, September 7-11, 2012

(ポスター)「若年性アルツハイマー病と晩
発性アルツハイマー病における認知機能障
害の年次変化」

田中 響, 橋本 衛, 石川智久, 矢田部裕
介, 遊亀誠二, 松崎志保, 露口敦子, 畑
田裕, 池田 学
第31回 日本認知症学会学術集会(つくば),
2012年10月26日-28日

(口頭)「レビー小体型認知症とアルツハイ
マー病の記憶障害の比較検討 —虚再認に
注目して—」

橋本 衛, 矢田部祐介, 遊亀誠二, 一美奈
緒子, 石川智久, 池田 学

第36回 日本高次脳機能障害学会（旧 日本失語症学会）学術総会（宇都宮），2012年11月22日－23日

（口頭）「自ら工夫した対処方法により仕事を継続し得た意味性認知症の一例」

第36回 一美奈緒子，橋本 衛，石川智久，田中 希，池田 学 日本高次脳機能障害学会（旧 日本失語症学会）学術総会（宇都宮），2012年11月22日－23日

矢田部裕介，大塚直尚，津野田尚子，曾山直宏，大森博之，兼田桂一郎，宮内大介，池田 学. 背景基盤が異なる認知症専門医療の比較検討. 第 32 回日本社会精神医学会，2013年3月7-8日（発表8日），熊本.

橋本 衛，矢田部裕介，遊亀誠二，一美奈緒子，石川智久，池田 学. レビー小体型認知症とアルツハイマー病の記憶障害の比較検討—虚再認に注目して—. 第 36 回日本高次脳機能障害学会学術総会，2012年11月22-23日（発表23日），宇都宮.

田中 響，橋本 衛，石川智久，矢田部裕介，遊亀誠二，松崎志保，露口敦子，畑田裕，池田 学. 若年性アルツハイマー病と晩発性アルツハイマー病における認知機能障害の年次変化. 第31回日本認知症学会学術集会，2012年10月26-28日（発表27日），つくば.

長谷川典子，遊亀誠二，本田和揮，矢田部裕介，荒木邦生，池田 学. 認知症に合併したせん妄. 第 27 回日本老年精神医学会，2012年6月21-22日（発表21日），大宮.

本田和揮，橋本 衛，矢田部裕介，兼田桂一郎，長谷川典子，遊亀誠二，小川雄右，露口敦子，田中 響，池田 学. 一般臨床におけるメマンチンの効果と副作用について. 第 27 回日本老年精神医学会，2012年6月21-22日（発表21日），大宮.

小松優子，矢田部裕介，橋本 衛，小嶋誠志郎，丸山貴志，池田 学. “鍋焦がし”に布石を打つ. 第 13 回認知症ケア学会大会，2012年5月19-20日（発表19日），浜松.

矢田部裕介，大塚直尚，津野田尚子，曾山直宏，大森博之，兼田桂一郎，宮内大介，池田 学. 背景基盤が異なる認知症専門医療の比較検討. 第 32 回日本社会精神医学会，熊本，3月7-8日，2013.

矢田部裕介，橋本 衛，矢野宏之，池田学. 認知症における色情のメカニズム，第 18 回日本神経精神医学会，大阪，12月13-14，2013.

田中 響，橋本 衛，福原竜治，石川智久，矢田部裕介，遊亀誠二，松崎志保，露口敦子，畑田 裕，池田 学. SMQ を用いた軽度アルツハイマー病患者の生活障害の検討；軽度血管性認知症患者との差異も含めて. 第 29 回日本老年精神医学会，東京，6月12-13日，2014.

上村直人 なぜ外傷性高次脳機能障害が困っているのか—精神科臨床における高次脳機能障害の診断・社会制度に関する心理社会的考察 第31回日本社会精神医学会